



廣島は、どんよりとした雲に覆われ雨が降っていた。ふと、74年前の8月6日にも、この日のようないに原爆が落とされることはなかつたのではないかと思つた。

一瞬にして廣島の街を地獄に変えた原爆の恐ろしさは計り知れない。

また、平和記念資料館には被爆者の遺品や被爆の慘状を示す写真や絵などの資料が展示されており、その中でも「顔に火傷を負った子ども」や「放射線により頭髪が抜けた姉弟」の写真、「真っ黒になつた三輪車」等、子どもに関する資料が多く、大変胸が苦しくなつた。平和行動を通じ、「戦争は誰も幸せにしない、二度と繰り返してはいけ

語り継ぎ、核兵器廃絶と 恒久平和を実現しよう

卷之三

「原爆慰靈碑」をはじめ、多くの慰靈碑が建立されているが、今もなお、脳裏から離れないのは「原爆供養塔」である。この塔が建立されている場所は、当時、身元も性別も判らない人々の死体が集められ、山と積まれて焼かれたところであり、塔の中には推定約7万の原爆死



委員会 現地報告

札幌地区連合青年委員会 報告
委員長 吉田 圭佑

「普通」ではなく『幸せ』である」ということを、戦争を知らない青年世代へ伝え、発信していく。



福祉はひとつ 結集を呼びかける
石狩ブロック労福協 太田会長

会石狩ブロック（石狩ブロック労福協会長太田聰）は、8月21日（水）に第18回定期総会を開催し、向こう1年間の活動方針と役員体制を確認しました。総会冒頭、太田会長は挨拶の中で、地震や大雨といった災害が多発する昨今、身近な助け合いで仲間の無保障者の解消に繋げるなど、「福祉はひとつ」とのもと労働者自ら展開する自主福祉運動へすべての働く者の結集を改めて呼びかけました。労働福祉事業団体との相互協力による労働者福祉向上への取り組みや、地区退職者連合と連携した、「現・退」の結集による生涯福祉・取引に繋げる「生涯お付き合い事業」の取り組み、東日本大震災被



災者支援をはじめ防災・減災意識の啓発活動、労働者福祉政策・制度改善の取り組みをはじめとした「勤労者福祉向上キャンペーン」の充実強化、各地区会議活性化の取り組みなど、安心・共生の労働者福祉の実現へ連合運動と一体となつた取り組み展開をめざすとした運動方針を全会一致で確認。その後の意見交換交流会では、各事業団体はもとより、総会参加者も加わつての「アピールタイム」で、労福協運動の推進へ熱い訴えが繰り広げられるなど、総会・交流会とも盛会のうちに終了しました。

生涯おつきあいの橋渡しを職場で！

小企業を取り巻く経営環境は「中境は厳しい」等と主張し、日程にこだわるべきではないと、年越し発効も視野に入れた発効日の後ろ倒しも主張しました。労使譲らない激しい審議が続き、最終的に使用者側が反対したものの、公益労働者側の賛成多数により結審しました。

依然として最低賃金がりぎりで働く労働者は年収200万円に満たない「ワーキングプア」の状態にあり、「生活の苦しさは変わらない」と切実な声が寄せられていることからも、早期の「最賃1,000円」の実現が必要不可欠です。引き続き連合は改正された最低賃金周知と履行確保、法令遵守、更には中小企業への支援策の早期かつ確実な実施を強く求めていきます。地域の一体的な取り組みを進めましょう。



連合北海道札幌地区連合会ホームページ
<http://hokkaido-ituc-rengou.jp/spk-chiku/>

QRコードで速報をチェック!

平和な社会を後世につなげるために! ×集団的自衛権、行使反対× ×安保関連法、共謀罪の廃止を× **連合北海道札幌地区連合会**



札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろうビル2階
編集発行人 太田 聰 ☎210-0505

2019年 9月5日 408号